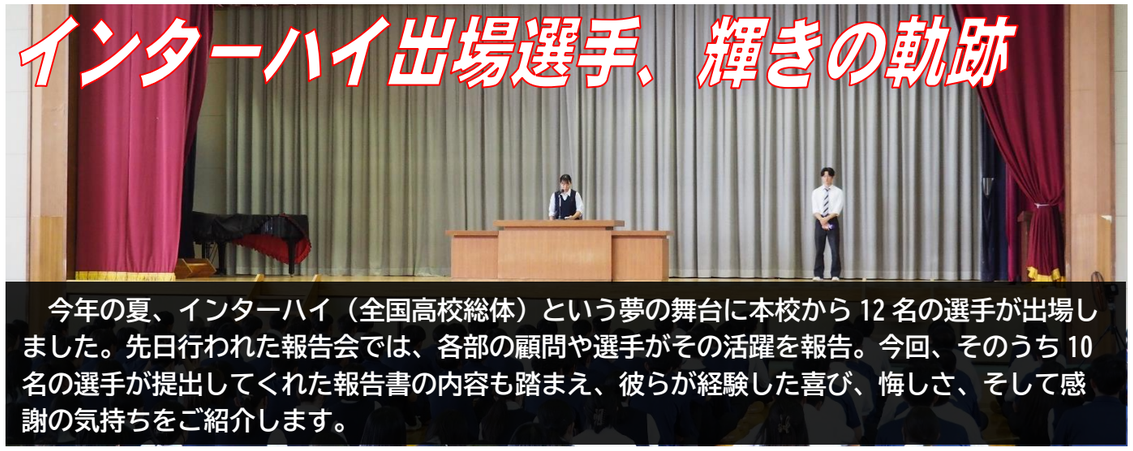
柴高通信

宮城県
柴田高等学校
2025.9.10
第6号



今年の夏、インターハイ（全国高校総体）という夢の舞台に本校から 12 名の選手が出場しました。先日行われた報告会では、各部の顧問や選手がその活躍を報告。今回、そのうち 10 名の選手が提出してくれた報告書の内容も踏まえ、彼らが経験した喜び、悔しさ、そして感謝の気持ちをご紹介します。

各部の活躍を振り返って

ウエイトリフティング部は男女合わせて 8 名が出場し、うち 6 名が見事入賞を果たしました。女子 59kg 級では、**佐藤萌花さん（岩沼中出身）**が **59kg 級 4 位**、**森望華さん（角田中出身）**が **59kg 級 5 位入賞**と、同じ階級の 2 人が素晴らしい成績を残しました。また、**佐藤萌花さんはクリーン＆ジャークでも銅メダルを獲得**する活躍を見せました。男子 96kg 級の**杉本洋輔さん（船岡中出身）**は、**96kg 級 で第 5 位入賞。クリーン＆ジャークでも銀メダル**を獲得しました。その他、**青島昊伸さん（五城中出身）が 81kg 級 6 位**、**近藤柊さん（村田一中出身）が 67kg 級 7 位**、**高橋虹心さん（金ケ瀬中出身）が 55kg 級 8 位**と、多くの選手が入賞を果たしました。部としても「全国で最も入賞者が多い学校のひとつ」と称えられ、「**自信と誇りにつながる大会になった**」と力強く振り返りました。

柔道部からは、**熊田愛留さん（名取一中出身）**が報告。66kg 級、73kg 級に選手が出場しました。結果は初戦・二回戦敗退となりましたが、選手たちはこの経験を**「今後に向けて頑張る糧にしたい」**と前向きな決意を語っています。特に**早坂虹之助さん（角田中出身）**は、一回戦で延長戦にもつれ込む激闘を制して勝利をもぎ取り、柔道の奥深さと厳しさを改めて実感したようです。

陸上競技部からは男子 100m に出場した**魚住優斗さん（沖野中出身）**が報告してくれました。惜しくも予選敗退という結果に終わりました。しかし、インターハイの舞台に立てたことを「**非常に良い経験になった**」と振り返っています。会場の特別な雰囲気や全国の選手たちと競い合ったことは、何物にも代えがたい財産となったようです。彼らはこの経験を今後の競技人生に活かし、さらに高みを目指す決意を語ってくれました。

1、夢の舞台に立った最初の気持ち

インターハイという大舞台に立った瞬間、選手たちは何を思ったのでしょうか。

「どきどきして、不安でしたが楽しみでした」と語ったのは、ウェイトリフティングの**高橋虹心さん**。同じく**ウェイトリフティングの清野春幹さん（槻木中出身）**は「ウエイトリフティング、競技、スポーツの楽しさを改めて感じた」と、純粋な喜びを口にしました。

一方、**ウェイトリフティングの青島昊伸**さんは、「インターハイに来たという実感はあまりなく、それ以上に『自分らしく楽しんで試合をしよう』という気持ちで臨んでいました」と、自分らしさを貫く決意を語ってくれました。

2、成長と悔しさを知った瞬間

全国の強豪と競い合う中で、選手たちは自己の成長と向き合いました。

ウェイトリフティングの近藤柊さんは、試合当日の独特な雰囲気に戸惑いながらも、「最近の練習の感覚と当日の感覚が全く異なったが、それに適応したことが成長した」と語りました。彼は、自分のベストに近い重量が上がらない日々が続いた苦しい準備期間を乗り越え、本番での勝負強さを身につけたのです。**柔道の早坂虹之助さん**は、一回戦で延長戦にもつれ込む激闘の末、心が折れかけた時、「仲間や家族、先生の応援を思い出し、諦めずに最後勝つことができた」と、支えの力で勝利を掴んだ瞬間を振り返りました。

しかし、その中には大きな悔しさもにじみます。**ウェイトリフティングの森望華さん**は、メダルをかけた最後の試技に挑んだライバルであり友人の**佐藤萌花さん**の姿に心を動かされました。「結果、自分はメダルには届かなかったが、萌花が種目別でメダルをとれた！そのことが分かった瞬間、2 人で泣いてだき合って喜んだ」と、自分のことのように喜んだと語りました。**陸上・ハンマー投げの鹿野姫夏さん（逢隈中出身）**も、自己ベストを狙えた投擲がファールになったことに「もう 1 回あれば…と悔しかった」と心残りがあるようです。この悔しさが、彼女たちの次の目標への大きな原動力となることでしょう。

3、支えてくれた人々への感謝

選手たちがインターハイの舞台に立つまでには、多くの人々の支えがありました。彼らはその感謝の気持ちを忘れていません。

ウェイトリフティングの蓑島竜人さん（金ケ瀬中出身）は、インターハイという全国の舞台に立てたこと、そしてしっかり記録を残せたことが「全て支えてもらったおかげ」だと感謝の気持ちを述べました。また、**近藤柊さん**も、「試合会場までの送迎や、遠征費など、たくさん負担をかけてしまったが、最後まで支えていただきありがとうございます」と、家族への深い感謝を語ります。**柔道の早坂虹之助さん**は、「その応援がなければ僕は負けていたと思います」と、応援が自身の力になったと実感したことを伝えました。**佐藤萌花さん**や**森望華さん**も、指導してくれた先生方や共に戦った仲間、そして家族の応援があったからこそ、この結果を残すことができたと振り返り、感謝の気持ちでいっぱいだと語っています。

4、次への決意、未来へつなぐ

インターハイでの経験は、選手たちにとって大きな財産となりました。この経験を今後の人生にどう活かしていくのか、それぞれの決意が語られました。

清野春幹さんは、「多くのケガをしたが最後のインターハイに向けて調整していき、一番調子の良いコンディションで出れた」経験から、「しっかりと準備をし、一番良いコンディションを作る」ことの大切さを学びました。この学びを今後の人生に活かしたいと決意を語ります。

また、**鹿野姫夏さん**は「インターハイの経験で、最後までやりきれば、いい景色を見ることが出来る。ということを胸に頑張りつづけたい」と、この経験を今後の生活にも活かしていく決意を語ってくれました。

杉本洋輔さんは「いざというときでもリスクをおそれずチャレンジすること」を、**青島昊伸さん**は「悔しさと喜びの両方を経験したこのインターハイを経て、さらに記録を伸ばしていきたい」と、それぞれ具体的な目標を掲げました。

そして、**高橋虹心さん**は「場所が変わってもいつもどおりの動きをおちついてできるようにいつも試合を想定しながら練習していきたい」と、冷静さを求める気持ちを口にし、次の目標である「国スポでは成功率にこだわってもっと上の順をとれるように頑張ります」と力強く宣言しました。

インターハイという舞台で成長を遂げた選手たち。彼らの経験は、きっと後輩たちの道しるべとなり、学校全体の活力になることでしょう。選手の皆さん、感動をありがとう！

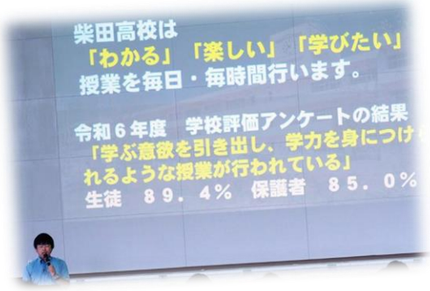
オープンキャンパスのご報告とご案内

８月２日（土）に開催した第１回オープンキャンパスには、中学生 192 名、保護者 73 名、合計 265 名もの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

当日は、本校の教育方針やカリキュラムについての説明に加え、在校生がリアルな高校生活について語るスピーチ、そして部活動体験を実施しました。参加者の皆様が、本校の雰囲気や学習・部活動への取り組みを体験し、進路選択の一助となっていれば幸いです。

さて、来る 10 月 5 日（日）には、体育科に特化した第 2 回オープンキャンパスを開催いたします。体育科の教育課程や入試状況の説明、そして各運動部の部活動体験を予定しています。

本校の体育科に興味のある方は、ぜひこの機会にご参加ください。教職員・生徒一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。



第 2 回オープンキャンパス 開催概要

日時：令和 7 年 10 月 5 日(日) 9:20～12:00
会場：宮城県柴田高等学校
対象：中学生及び保護者
日程
　受付：9:00～9:20
　学校説明会：9:20～9:50（体育科の概要、教育課程、進路状況、入試状況など）
　部活動体験：10:10～12:00
体験できる運動部
　陸上競技（男女）　硬式野球（男女）　剣道（男女）　水球（男女）
　柔道（男女）　ウエイトリフティング（男女）
お申込み方法
　申込方法：FAX（FAX:0224-56-3803）
　申込期間：令和 7 年 8 月 25 日(月)～9 月 24 日(水)
その他
　当日は上履きをご持参ください。
　部活動体験希望者は、運動着、シューズなど必要なものをご持参ください。
　天候によっては体験が中止となる場合もあります。
　ヒルズ県南総合プールの駐車場もご利用可能です。